

# 社会福祉施設におけるインフルエンザ様疾患の感染予防等について

平成9年1月27日

厚生省 大臣官房障害保健福祉部企画課長、社会・援護局施設人材課長、老人保健福祉局老人福祉計画課長

社会福祉施設（児童家庭局所管施設を除く。以下同じ。）入所者の健康管理については、従来から御指導願っているところであるが、今年はインフルエンザ様疾患の流行状況が例年になく高い数値を示しており、その対策について、別添1のとおり保健医療局エイズ結核感染症課長から注意喚起の通知が発出されたところである。

については、下記の点も含め、衛生部局と連携を図りながら管下社会福祉施設に対して遺漏のないよう周知及びその予防対策の徹底方指導願いたい。

なお、インフルエンザの重症化防止のためのワクチン接種については、別添1により、別添2の感染した場合に重症化しやすい方々（ハイリスクグループ）に対する呼びかけが行われているので、入所者が接種を希望する場合には、嘱託医等とよく相談の上、効果的と判断される場合に接種が受けられるよ

（別添1）

う配慮願いたい。併せて職員の任意接種についても必要に応じ受けられるよう配慮願いたい。

おって、これらに要する費用については、原則として本人の負担となるが、社会福祉施設については、施設の判断により措置費から支出して差し支えない旨申し添える。

記

感染予防等の留意事項

- 1 入所者及び職員に、手洗い、うがいを励行させること。
- 2 風邪の症状を示す者については面会を遠慮願うなど、施設の外部からの感染に留意すること。
- 3 嘱託医等と連絡を密に取り、入所者に対しきめ細やかな健康管理を行うこと。
- 4 職員の健康管理に留意し、職員からの感染を防止すること。

## インフルエンザ予防対策の徹底について

平成9年1月24日 健医感発第4号  
都道府県

各指定都市衛生主管部（局）長あて 保健医療局エイズ結核感染症課長通知  
中核市

インフルエンザ予防対策の徹底については、先般開催された全国衛生主管部局長会議で依頼したところであるが、感染症サーベイランス事業においては、

定点あたりのインフルエンザ様疾患の報告数は、依然として高い値で推移しており、インフルエンザの流行は予断を許さない状況にある。

(別紙)

今般、別添のとおり、国民に対し広く注意喚起を行ったので、貴管下市町村、関係機関、関係団体に対する周知及びインフルエンザ予防対策の徹底方よろしくお取り計らい願いたい。

なお、インフルエンザは、高齢者等に感染した場合、重篤な症状をきたすことがあることから、民生部局に対する情報提供等の連携を図られたい。

平成9年1月24日

照会先：保健医療局エイズ結核感染症課  
担当：梅田（内線2373）、広畑（同2376）

## インフルエンザ様疾患の流行状況について

### 1 発生状況について

感染症サーベイランス事業においては、昨年12月下旬頃から全国的にインフルエンザ様疾患の流行の兆しが見られ、年末年始にかけて過去10年間で最も報告数が多かった。本年第2週は、一昨年同時期の定点あたり報告数（23.41）より少ないものの、昨年第52週の定点あたり報告数（19.07）を上回り、依然として高い値（19.58）で推移している。

特に大分県（定点あたり41.1）、高知県（同39.64）、富山県（同38.19）からの報告が多くなっている。

### 2 今後の流行状況について

今後の流行状況を予測することは難しいが、例年1月から2月下旬にかけて報告数が多いことから、引き続き流行が続く可能性がある。

### 3 対策について

帰宅後の手洗い、うがいの励行、必要がないなら人混みを避ける。

睡眠をよくとり、暴飲、暴食をせず、休養をとる。

高齢の方は、インフルエンザの症状があまりでないが、長引くと肺炎など重症になる可能性があるため、かぜの症状ができれば早めに医療機関を受診する。

インフルエンザの重症化を防止するためには、ワクチン接種が有効であり、高齢者や基礎疾患を有する人は、かかりつけ医とよく相談の上で、接種を受けることが望ましい（別紙参照）。

などが重要である。

## インフルエンザのワクチンについて

国立予防衛生研究所によれば、現在流行しているA香港型（H3N2）のインフルエンザウイルスは、今年生産されたワクチン成分（H3N2型、H1N1型、B型）と合致していることから、ワクチンの接種によりインフルエンザの症状を軽くしたり、重篤な合併症を防ぐ効果があります。

現在までに例年より多くの感染者数が報告されており、これから2月にかけて流行が続く可能性がありますので、65歳以上の方、基礎疾患を有する方（心疾患、肺疾患、腎疾患など）は、かかりつけ医とよく相談のうえ、早めに接種を受けることをおすすめします。

インフルエンザのワクチンはおよそ1～4週間の間隔を置いて2回接種を行います。大人であれば過去のA香港型インフルエンザ流行時の免疫を有していると考えられ、1回の接種であっても1週間程度で追加免疫効果が期待できるという専門家の意見もありますので、今回の流行においては、まずは接種をおすすめします。

インフルエンザのワクチンは他のかぜウイルスによる普通感冒を防止することはできません。また、過去のワクチン接種でアレルギー歴のある人などには接種をすすめられませんので、接種時には医師と十分相談してください。

(別添2)

## 感染した場合に重症化しやすい方々

(ハイリスクグループ)

- |                                     |                               |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1 高齢者(65歳以上)                        | 4 腎疾患患者(慢性腎不全、血液透析患者、腎移植患者など) |
| 2 慢性気管支肺炎疾患患者(気管支ぜんそく、慢性気管支炎、肺結核など) | 5 代謝異常患者(糖尿病、アチソン病など)         |
| 3 心疾患患者(僧帽弁膜症、鬱血性心不全など)             | 6 免疫不全状態の患者                   |